

# 「2018紙パックリサイクル年次報告書」 発行にあたって

日ごろは、全国牛乳容器環境協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。紙面から恐縮ではありますが、厚く御礼申し上げます。

日本経済は個人消費に力強さを欠くものの、堅調な輸出や株高に支えられ、緩やかな成長を維持しています。本年も、輸出の増加基調は続き、企業の設備投資増や五輪関連の建設需要などを背景に底堅く推移するとみられています。

酪農乳業界においては、夏以降、北海道の生乳生産が約1年振りに回復傾向を示し、明るい話題となっています。一方、都府県においては減少傾向に歯止めが掛からず、国内の生乳生産基盤の回復にはまだ程遠い状況です。また、紙パック商品の販売量も、主たる飲用牛乳等に利用される量の漸減傾向は変わらず、PETボトル飲料が普及する影響を受けています。

2008年に完全施行され、2013年に2度目の見直しを開始された改正容器包装リサイクル法は、一昨年5月によりやく「容器包装リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する報告書」として取りまとめられ、作業終了しました。主にプラスチック容器に関する課題提示があったものの、紙パックに特化した懸案等はなく、容リ制度上は次回見直しまで、紙パックに関して現状継続との結論が出されたと判断しています。

それらの経過如何にかかわらず、私たちは「一人ひとりが環境を考え、行動していく社会」を目指して、紙パックリサイクルの普及・拡大に向けた取組を続けていかなければなりません。

紙パックリサイクルの指標である紙パック回収率は、調査開始以来順調に向上してまいりました。しかし、ここ数年は伸び悩み傾向となり、2015年度は前年度を下回りましたが、2016年度データでは少し回復した実績となっています。

回収率を高める対応として、わたしたちは、各委員会制度の運営充実と所属する専門委員の力を高める活動に注力してまいりました。総務委員会では、自治体の環境担当部署を訪問し、より効果的な広報活動や回収の仕組みづくりに向けた意見交換、消費者啓発のための協働取組などを行っています。広報委員会では、ホームページの改修に継続して取り組み、また展示用パネルの内容充実を図っています。イベント委員会では、6月 エコライフ・フェア、12月 エコプロへの出展、地域の大規模量販店々頭における紙パックリサイクルイベントなどにより、多くの市民の皆さまに、分別排出・回収の呼びかけを行なっています。

また、自治体との連携による紙パックリサイクル講習会、全国の小学校への出前授業も継続開催して、小学生の環境教育の中で「大事



全国牛乳容器環境協議会  
会長  
青山 和夫

な紙資源、もったいない」を学習できる機会としています。支部組織委員会では、全国の当会々員がかかわる地域の環境イベントにおいて、来場者に紙パックリサイクルを啓発するための展示・クイズパネル等を利用いただける体制を整えた結果、恒例行事として定着したイベント件数が増えています。ミルク段ボール製の紙パック回収ボックスは、累計で24,000個近くの配布実績となりました。

2017年度には当会初となる広報手段「都バスへのラッピング」を実施。10月から約3か月の間、主に東京都北区、荒川区、足立区に紙パックリサイクルを呼びかけて走りました。

その他の取組のご紹介を含め、1年間の活動内容を総括してここに「2018紙パックリサイクル年次報告書」をまとめましたので、ぜひお目通しいただき、ご意見・ご指導をお寄せいただければ幸いです。

誠に残念ながら、2016年度紙パック回収率実績値は、目標としていた50%以上を達成できませんでしたが、2020年度に向け、まだまだ集計しきれていない回収ルートを発掘・集計することや、雑がみに混ざって排出されている紙パックの扱い方、まな板や廃油入れなどに別利用され廃棄されている割合調査などにも取り組み、より実態に即した回収率把握に努める所存です。

市民団体の全国牛乳パックの再利用を考える連絡会様をはじめとした、さまざまなステークホルダーの皆さまとの協働も進めてまいります。会員の皆さまにおかれましても、今までも増して更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

2018年1月

# 回収率向上アクションプラン

全国牛乳容器環境協議会（以下、容環協）では、「2020年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率向上を目指しております。

具体的な取組は以下のとおりです。

**《目標》**  
紙パック回収率 **50%以上**  
2020年度

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進します。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開します。

## 【主な取組】

- 1.回収率を高める場づくり
  - ①ステークホルダー会議などの充実
  - ②地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー
  - ③地域の環境活動（紙パックリサイクル講習会の開催（全国牛乳パックの再利用を考える連絡会（以下、全国パック連）と連携）などへの参加と情報共有



# CONTENTS

## 活動トピックス

- 「プラン2020」……………2
- 環の縁結びフォーラム……………3
- 紙パックリサイクル促進地域会議……………4
- 製紙メーカー意見交換会……………5
- リサイクル促進意見交換会……………6
- 紙パックリサイクル講習会……………7
- 牛乳パックリサイクル出前授業……………8
- エコライフ・フェア／エコプロ2017……………10
- 牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール……………11
- その他の活動……………12

## 活動報告ダイジェスト

- 2016年度 紙パック回収率……………14
- 2016年度 紙パックマテリアルフロー……………16

## 2.様々な生活の場における回収促進

- ①生活の場に根ざした回収力向上（紙パック回収ボックスの提供、環境メッセージ広告を紙パック商品に掲載する環境キャンペーンの実施、工場見学者に対する紙パックリサイクル啓発の実施）
- ②牛乳1000ml以外（500ml、200mlなど）の回収促進
- ③紙パックとしての分別の促進
- ④再活用から資源価値の高い再生紙へ
- ⑤屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進

## 3.教育や学習の場における活動の促進

- ①教育・学習とリサイクルの協調（小学校での牛乳パックリサイクル出前授業の開催（全国パック連と連携）・牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールへの協賛）
- ②学校給食用牛乳パック（以下、学乳パック）の回収率向上

## 4.コミュニケーションの充実

- ①ステークホルダーとの対話と協調
- ②再生品の利用促進
- ③様々なイベント等への参画
- ④インターネットなどによるコミュニケーション（容環協HP・牛乳パックン探検隊HP）
- ⑤国際的連携の推進

## 2017年度活動報告

- 小売事業者のリサイクル状況……………18
- 福祉施設のリサイクル状況……………19
- 市町村回収・集団回収の状況……………20
- 学校のリサイクル状況……………22
- 製紙メーカーのリサイクル状況……………23

## 紙パックのリサイクル学

- 紙パックを取り巻くダブル循環……………24

## 全国牛乳容器環境協議会の概要

- あゆみ……………26
- 容環協の発行物……………28
- 会員一覧……………29

# 「プラン2020」 2年目取組状況

# わ 環の縁結びフォーラム



## 「プラン2020」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動を推進してまいります。2017年の主な活動は以下のとおりです。

### 1. 総務委員会

#### (1) 回収力を高める場づくり

様々なステークホルダーと、2月には「飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会」を行い、10月には東京都で「紙パックリサイクル促進地域会議in東京23区」を開催しました。回収率向上に向けた取組事例の発表や、抱える問題の洗い出し、課題整理を行いました。

#### (2) 様々な生活の場における回収促進

紙パックの再活用から資源価値の高い再生紙へつなげるため、再活用量と資源量としての回収不可能量を推計する調査を実施しました。加えて、再活用品の資源化を啓発する工作用パンフレットを作成しました。また、ホテルでの回収について働き掛けを継続しています。

#### (3) 教育や学習の場における活動の促進

学校を核とした回収力強化の一環として、出前授業時に学乳パック回収についてヒアリングを行っています。

#### (4) コミュニケーションの充実

「2017年度紙パックリサイクル基本調査」の一環として、古紙原料問屋へのアンケート調査を実施しました。

### 2. 広報委員会

#### (1) 普及啓発事業

##### ① ホームページの拡充

ホームページの内容を充実させることを目的に、コンテンツ「紙パックリサイクルの流れ」をわかりやすいイラストと写真を使用して全面的に改訂しました。

##### ② ラッピングバス広告実施

新たな広報手段として都営バスの車体に紙パックリサイクル啓発の広告を掲出しました。

③「大人も子どもも 牛乳パックで作る小物リサイクル工作室」を発行しました。

全国パック連と協力してB5版、8ページに小物づくりとともに環境教育、端切れのリサイクル推進も訴えました。

④年次報告書の企画・編集に取り組みました。

#### (2) 回収促進事業

①総務委員会と協力して作成した回収ボックス1/2サイズをコンビニエンスストア店頭や武蔵野市関連施設など15か所に設置いただきました。

### 3. イベント委員会

#### (1) 紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と連携して小学校6校で出前授業を開催、全国パック連・平井代表の講義や手すきはがきづくりを通して、計406名の児童と67名の保護者に環境教育を実施しました。また、同様に自治体や店舗6か所で行ったリサイクル講習会を開催しました。

②エコライフ・フェア2017、エコプロ2017など地域環境フェアに出展しました。

#### (2) 牛乳紙パックで「遊ぶ学ぶ」コンクール

応募の少なかった4県の小学校全校と東京都の過去実績校にDMを送り参加を促すなど、裾野拡大に努めました。

### 4. 支部組織委員会

#### (1) 地域の環境活動などへの積極的支援及び参加

①容環協会の地域事業所が容環協の各種パネルや冊子などを活用して独自に紙パックリサイクル啓発活動を実施し、また自治体などの地域の環境活動にも積極的に参加しました。

②自治体や地域の乳業協会などと連携し、啓発ツールの貸出や再生品(トイレトペーパー)提供を行いました。クイズ回答用紙裏面でのアンケートは継続実施し、得られた情報を調査の参考としました。

③タペストリータイプのクイズパネルは好評のため追加製作し、自治体や容環協イベントで活用しました。

#### (2) メールマガジン発行と拡大

①特色のある地域の取組を掲載し、他地域への水平展開を図り、委員会の支援ツールについても継続して情報発信し活用を進めました。

②地域会議など容環協主催の会議に参加いただいた方にお送りすることとし、配信先を拡大しました。

自治体、NPO、関連企業などが  
参加し、牛乳パックのリサイクルにかかわる欧米の  
取組や日本との比較事例が報告されました。

### 【環の縁結びフォーラム】11月7日

全国パック連が主催、容環協が協賛する「環の縁結びフォーラム」及び全体交流会が中野サンプラザにて開催されました。今回のテーマは「海外のリサイクル政策と日本の資源循環法体系を通し紙パックリサイクルのあり方を考える」で、国、自治体、NPO、関連企業など延べ70名の方々が参加されました。

主催者の全国パック連・平井代表より、2016年にヨーロッパ、北米を視察し、全世界で紙パックリサイクルを推進している団体は、欧州のACE、北米のCarton Councilと日本の容環協の3団体しかないこと、そして世界に先駆けて紙パックリサイクル運動に取り組んだ市民団体である全国パック連に加え、グローバルな情報交流会ができないかとの思いから今回のフォーラム企画実現の運びとなったと挨拶がありました。今回の海外事例などの講演や、情報交換を通じてこれからのリサイクル方法についてお互いに望ましいリサイクルのあり方やそれを進めていくためには何が必要なのかを考える機会としたい、との開催主旨説明がありました。

また、来賓挨拶として容環協・青山会長より、2016年4月に策定した行動計画「プラン2020」に従って、①回収率を高める、②紙パックの環境特性を正しく伝える、③環境を考へ行動する人々を増やす、に努めていることなどの説明が

ありました。また直近の取組事例紹介として、10月1日～12月末まで都営バスを牛乳パックのラッピングバスに仕立て千住営業所地域で運行しており、地域住民の方々に紙パックのリサイクルを呼びかけている事例の紹介もありました。

基調講演では、環境省からの「国内外の資源循環政策の動向」の発表に続き、ACEから「欧州における飲料用紙容器のリサイクル」と題した欧州の事例を、Carton Councilからは「北米における飲料用容器リサイクルとCarton Councilの活動」と題した北米の事例が、それぞれ動画映像などを交えた資料で発表されました。

質疑応答では、欧米におけるブランドオーナーとの関係、プラ容器削減の方向性、日本のリサイクルの方向性を問う内容の質問などもあり、活発な質疑応答がされました。

まとめとして、日本の紙パックリサイクルの取組は欧米と異なり、乳業メーカーが中心となって役割分担がなされ、様々な活動をしているのが特徴であり、日本の紙パックリサイクルの優れた取組は世界に歩調を合わせるのではなく、高い目標を掲げ取り組んでいくことが改めて大事なことであるのではないか、と結ばれました。続く全体交流会では、参加者の中で活発な情報交換が行われ、盛況のうちに散会となりました。



主催者代表 全国パック連 平井代表



ACE(左)とCarton Council(右)の招待講演者

## 紙パックリサイクル促進地域会議

## 製紙メーカー意見交換会



各地域での情報交換を通じて、  
リサイクルの促進を図る  
地域会議を開催。

紙パックリサイクル促進地域会議  
in 東京23区

- ◆開催日 2017年10月25日
- ◆参加者 環境省、経産省、農水省、自治体、市民団体、乳業メーカー、容器メーカー、回収業者など計40名

## 【主な報告や問題提起】

- 来賓挨拶として、農水省より、JAPAN PACKや暮らしの包装展での多様な紙パック展示についてご紹介いただきました。環境省からは、中国の資源ごみ輸入禁止に関連して、国内古紙市場への影響が懸念されるので、資源の適正な国内循環をお願いしたいとの話がありました。また経産省からは、市民が立ち上げた日本の紙パックリサイクルシステムをもっと回るようにするためにどうすれば良いか一緒に考えていきたい、との話がありました。
- 基調報告では、容環協より、行動計画「プラン2020」の概要、紙パック回収率の推移と課題、主な活動内容などを紹介しました。また、参加各区の取組について紹介しました。
- 意見交換では、まず集団回収にどうかかわっていくか、大規模マンションへの対応・手続きについて話し合い、集団回収は自治会と民間業者間の契約なので、行政



地域会議 in 東京23区の様子

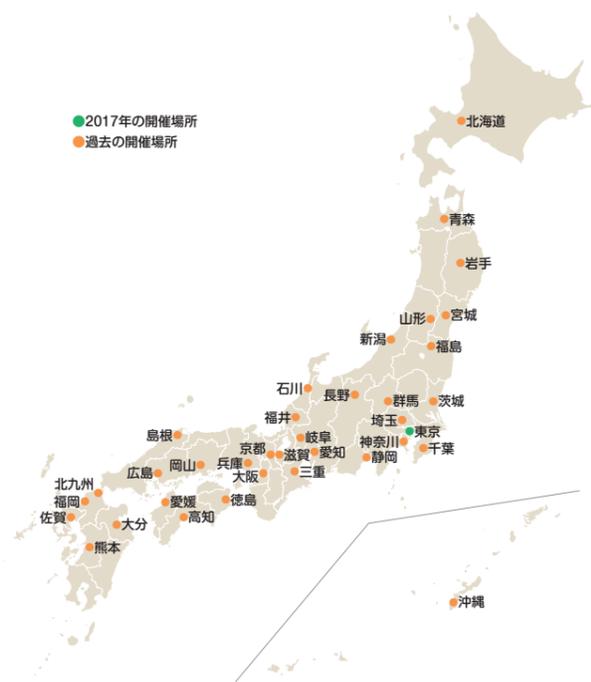
としての指示は出来ず、行政回収の方が週1回の回収なので区民にとって利便性が良いとの意見などが挙げられました。一方、大規模マンションが建設されると行政回収のコスト増となるので、建物の完成検査時に集団回収を勧めている、との意見もありました。

次に資源の国内循環・行先の制限などについては、回収業者との仕様書上で、国内循環を明記している区としていない区があり、容環協からは、国内循環の促進をお願いしました。

また、全国パック連からは、「市民の立場としては、ひと手間掛けて出したものがどこに行ったのか分からないのは困る、商売に関係なく行政の立場として区民に情報を戻し啓発をお願いしたい。日本の紙パックは100%回収されても日本の製紙メーカーで処理できる能力がある」との意見がありました。

最後に、容環協から、引き続き区民の啓発活動に容環協を活用していただきたいことをお願いし、紙パックのリサイクルを促進するためには、関係者の協力と情報共有が重要であることを確認して閉会となりました。

## 地域会議の開催場所



紙パックリサイクルの  
現状と課題が  
明らかになりました。

## 【製紙メーカー意見交換会】7月18日

全国パック連との協働で、静岡県富士市の「ふじさんめっせ」会議室にて、製紙メーカーとの意見交換会を開催しました。当日は、家庭紙メーカー、古紙回収業者など24名が出席しました。

最初に容環協から、2015年度の紙パック回収量が2014年度と比較して減少しているとの報告がありました。対策として、これまでの啓発活動を継続していくことに加え、保育園やホテルなど新たな回収ルートを発掘することが重要との説明がなされました。保育園では工作などの材料として大量の紙パックを使用しているが再活用後は廃棄されているとの現状を受け、再活用後の紙パックについても分別排出を依頼したことが報告されました。

意見交換の場では、昨今の古紙輸出増加による紙パック回収率への影響、使用済み紙パックの雑がみへの混入、コーヒーチェーンでの紙パック回収実績、ノンアルミ酒用紙パックの増加傾向などについて話し合われました。

雑がみへの混入については、紙製容器包装リサイクル推進協議会が回収古紙の組成分析調査を実施し、一定量の紙パックが混入していることが分かっていますが、市民の分別作業の徹底が容易でない面もあることが報告されました。

コーヒーチェーンについては、新たな紙パック回収ルートの発掘のため、海外紙パック原紙メーカーから海外コーヒーチェーン本社に日本市場での紙パック回収の協力要請をしたところ、取組が加速した成功事例が紹介されました。一方で、フランチャイズ店では紙パック回収に課題を残すことなどが説明されました。

今回の意見交換会において、メーカーや団体からそれぞれの見方や実情について従来以上に深い説明がなされ、参加者は紙パック回収の重要性を再認識するとともに、各課題について多面的に考えることができました。



意見交換会の様子



会場のふじさんめっせ

# リサイクル促進意見交換会

関係団体が多数集い、  
リサイクルの現状と課題を  
話し合う貴重な場に。

## 【第29回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2月8日に乳業会館にて、環境省リサイクル推進室、農水省食品産業環境対策室、経産省リサイクル推進課、国税庁、自治体関係者、市民団体、製紙メーカー、古紙回収業者、流通関係者など計55名出席のもと、飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会を開催しました。

最初に容環協の青山会長から挨拶を行い、紙パック回収の歴史、昨年定めた「プラン2020」の目指すところと3点の行動目的などを説明しました。続いて環境省から、2016年に行われた容リ法に関する見直しの結果と、手間の掛かる紙パックのリサイクルをきちんと行っている日本の国民性を活かしたサーキュラー・エコノミーの形成に関する挨拶がありました。農水省からは、食品ロスの削減に力を入れている現状の紹介と、新しい形状の紙パックがこの点に貢献できるのであれば紹介していきたい、との挨拶がありました。

取組状況報告として容環協から、活動の概要説明と、「プラン2020」の3つの目的を持って環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考えて行動する社会の実現に向けて活動している旨の報告を行いました。続いて4つの専門委員会の活動状況を各委員長から報告しました。



主催者挨拶 容環協 青山会長



ステークホルダーの方々

調査会社からは、2015年度の紙パックリサイクルに関する調査結果の報告を行いました。回収率は43.1%と前年度より1.6ポイント低下してしまったこと、輸出されている使用済み紙パックの量が把握できていないこと、行政ではなく民間が回収する割合が非常に多いことなどが主要な報告内容となっています。

後半は、紙パックリサイクル促進に向けた意見交換を行いました。この中で、回収率が伸び悩む原因に関連して、自治体のコスト、排出方法の見直し余地、紙パックの集め手や行先についてなど、様々な視点から発言がなされました。回収の状況としては、集団回収への移行に伴い拠点数は増加するが、1か所での回収量は減少し、回収業者の負担は増加しているとの声があり、製紙メーカーからは輸出やアルミ付き紙パックとの混合回収についても意見がありました。流通関係者からは、学乳パックを洗う時間や場所が無いという話はおかしいといった意見や、店頭回収には勿論協力するが、その先の運搬にかかる負担が大きいので行政や業界のフォローが欲しいという要望も聞かれました。また酒パック関係先からは、注ぎ口の部分を外した回収方法についての情報提供がありました。

限られた時間ではありましたが、紙パック回収が持つ固有の課題を参加者全員で共有できた会議となりました。

# 紙パックリサイクル講習会

現状を知っていただき、  
実際にリサイクルを体験する  
楽しい講習会です。

## 【愛知県 春日井市】7月25日

環境都市を目指す春日井市の体験学習施設「エコメッセ春日井」にて、夏休み親子教室の一環で『夏休み牛乳パックリサイクル講座』を開催し、児童・保護者計31名が参加しました。全国パック連・平井代表による講義や牛乳パック手開き体験などの後、手すきはがきづくりでは、楽しみながら「世界で1枚のプレミアム手すきはがき」を完成させました。



牛乳パック手開きに取り組む児童

## 【神奈川県 相模原市】8月3日

相模原市の講習会には、小学生22名、未就学児6名とその保護者19名の計47名が参加しました。牛乳パックの手開き体験では、大きな牛乳パックの模型を使った講師のデモンストレーションを見ながら、「できた!」と自分で開いた牛乳パックを掲げて喜ぶ子どもたちが印象的でした。修了式では、市の資源リサイクルイメージキャラクターの一人「ペーパーピンク」から修了証と記念品が進呈されました。



児童に修了証を渡すペーパーピンク

## リサイクル講習会講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」  
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」  
「牛乳パック手開き」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

## 【東京都 西東京市】8月9日

西東京市が開催したイベントで、全国パック連と連携して講習会を実施し、児童と保護者計53名が参加しました。クイズを交えた講義では、牛乳パックを資源として再利用することの大切さを伝えました。手すきはがきづくりでは参加者から紙すき用のパルプの作り方について質問があり、牛乳パックがパルプに生まれ変わる工程の説明などの特別授業もありました。



手すきはがきづくりの様子

## 【徳島県 板野町】10月20日

町の消費生活相談所主催のイベントで行われた講習会に、60～80代の町民28名が参加しました。通常は小学生を対象とすることが多い中、今回は講義やビデオも大人向けの内容でとても新鮮でした。手すきはがきづくりにとっても楽しそうに取り組み、完成したはがきを見せ合う姿はほほえましく、自宅での作り方について質問があるなど、今後も地域で手すきはがきづくりを続けたいという意欲が伝わりました。



出来上がったはがきを手に満面の笑み

## 牛乳パックリサイクル出前授業



子どもたちの学びの場に。  
毎年好評の「出前授業」を  
全国の小学校で開催。

2017年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

## 【埼玉県 三郷市立丹後小学校】5月25日

丹後小学校では飲み終えた学乳パックを一人ひとりが手開きし、当番の児童がまとめて洗って乾かしており、6年生の指導で1年生の時から毎日リサイクルを行う意識の高さを感じました。授業では熱心に話を聞き、外国製のトイレットペーパーを触ろうと一斉に手を伸ばし、オリジナルの手すきはがきを「一生大事にします」と喜ぶ児童たちが印象的でした。(4年生82名受講)



平井代表による講義



手すきはがきづくりの様子

## 出前授業講義内容

- ・講義 「資源と森林管理について」  
「牛乳パックは良質な資源」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・体験 「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・質問コーナー 「リサイクル説明パネル」

## 【広島県 広島市立井口台小学校】7月11日

「やさしく 強く 正しく 粘り強く」を教育目標に掲げる井口台小学校で、3年生のPTC(保護者・教師・子どもたち)活動の一環として出前授業を実施しました。全国パック連・平井代表の講義後に行われた手すきはがきづくりでは、初めて触れるパルプの感触に驚きながら、完成したはがきを手「こんな真っ白な、綺麗なはがきができるんだ」と感動していました。(3年生74名受講)



手すきはがきづくりの様子



クイズも行いました

## 【山梨県 南アルプス市立白根百田小学校】9月12日

昨年に続いて白根百田小学校で実施した出前授業は、明るく元気な児童たちの挨拶に迎えられました。6年生になると卒業証書用の紙を自分たちですくこともあり、手すきはがきづくりでは水に溶けた良質なパルプの感触を確かめ、説明を受けながらはがきづくりに真剣に取り組み、最後のまとめの会も元気な挨拶で授業を終えました。(4年生53名受講)



手すきはがきを手に記念撮影

## 【宮城県 仙台市立中山小学校】9月27日

仙台市の放課後子ども教室事業「生き生き中山っ子教室」の活動として、中山小学校で出前授業を実施しました。リサイクルの講義や手すきはがきづくり体験を行い、クイズを交えた学習では児童たちが積極的に手を挙げ発言していました。牛乳パック手開きも実演し、同校では行っていない学乳パックリサイクルの推進をお願いしました。(3～6年生37名受講)



平井代表の話に聞き入る児童たち

## 【大阪府 三島郡島本町立第二小学校】10月11日

10月にもかかわらず30℃近い気温の中、暑さに負けない元気な児童たちが参加しました。全国パック連・平井代表の講義では諸外国と比べて日本の再生品トイレットペーパーの白さに驚き、手すきはがきづくりにはもう一枚作りたいと声があがるほど興味津々。リサイクルの大切さがよくわかり、全員でこれからリサイクルを頑張りますとの声をいただきました。(4年生と保護者 計152名受講)



手すきはがきづくりに興味津々

## 【神奈川県 横浜市立荏子田小学校】11月24日

「みんなで笑顔 みんなで元気 みんなで伸びるキラキラ荏子田」を教育目標にかかげる荏子田小学校で、出前授業を行いました。講義では日本のリサイクル方法は衛生的な紙パックが集められること、原料となるパルプが環境にやさしいことなどを学び、手すきはがきづくりでは再生パルプの変化に驚きながら、出来上がったはがきを自慢していました。(3年生75名受講)



大きな声で返事をする児童たち



リサイクルの大切さを啓発。  
紙パックの手開きや紙すきを  
体験しました。

【エコライフ・フェア2017】6月3日、4日

環境省が中心となり、毎年6月の環境月間に東京の代々木公園で開催されているエコライフ・フェア。今回で28回目となる本イベントに容環協は11回目の出展をしました。

ブースでは紙パックリサイクルのパネル説明、クイズ、手すきはがきづくりなどを実施。メインステージからやや離れた場所でしたが大変活況で、約630名のお客様に参加いただきました。ワークショップでは、牛乳の栄養価の高さや効果などの説明、DVD「牛乳パックン探検隊」の視聴、紙パックリサイクルのクイズなどを楽しんでいただきました。イベントを通じて多くの方に紙パックの資源としての価値をお伝え、「今後は洗って、開いて、乾かしてリサイクルします」との声もいただき、とても有意義な活動となりました。



環境パネルでの説明とクイズ



ワークショップの様子

連日盛況の容環協ブース。  
国内最大級の環境展に  
出展しました。

【エコプロ2017】12月7日～9日

「エコプロ」は、1999年から開催されている日本最大級の環境展示会です。2017年で19回目の開催となり、容環協は今回も牛乳パック再利用マーク普及促進協議会と共同で出展しました。

展示会全体の来場者数は160,091名、そのうち1,714名が容環協ブースに足を運び、イベントに参加していただきました。ブースでは紙パックのリサイクルルールや仕組みを学ぶ「卓上型環境展示」や「ひと目でわかる紙パックリサイクルほんとはなし」などの各種資料の配布に加え、「牛乳パック手開き体験」のワークショップ、また恒例となった全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」を行い、様々な展示や活動を通じて、紙パックのリサイクルへの理解と協力を広く訴える機会となりました。



ワークショップ風景



卓上型環境展示での説明

長村 磨侑さんの作品  
「私の町の岐阜提灯」が  
見事最優秀賞に。

17回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2017」には全国の小学校より2,610作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。

#### 《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『私の町の岐阜提灯』  
長村 磨侑さん(岐阜市立岐阜小学校6年)
- ◆優秀賞 『牛乳パックのハリネズミ』  
稲垣 優衣さん(さいたま市立浦和別所小学校3年)
- ◆優秀賞 『牛乳パックシューズ』  
松澤 匡さん(川崎市立霞ヶ関東小学校4年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞  
『アゲハチョウのよう虫あおちゃん』  
久保田 冴月さん(熊谷市立桜木小学校4年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞  
『牛乳パックのコイン選別機』  
森川 陽斗さん(広島市立大州小学校5年)
- ◆日本乳業協会賞  
『なつのおでかけグッズ』  
真崎 李奈子さん(千歳市立末広小学校1年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞  
『牛乳パックあじさい』  
伊達 ころさん(広島市立矢野小学校3年)



最優秀賞受賞の長村 磨侑さん

最優秀賞は岐阜県の小学校6年長村磨侑さんの作品「私の町の岐阜提灯」でした。牛乳パックと岐阜の良いところと一緒に伝えるため、岐阜提灯を選びました。本体の部品や飾りの絵も牛乳パックから作り、牛乳パックは可能性のある素晴らしい資源だというメッセージをこの作品に込めてくれました。

受賞作の表彰式は「エコプロ 2017」の容環協ブースにて12月9日に行われ、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員会の容環協・加藤常務理事をはじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学校向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞作品  
「私の町の岐阜提灯」  
長村 磨侑さん



「エコプロ2017」容環協ブースで行われた表彰式

## その他の活動



全国パック連との連携で  
商業施設における啓発にも  
取り組みました。

## 【商業施設「ニトリモール相模原」】3月18日

神奈川県相模原市のごみの軽量化・資源化を推進する活動「相模原ごみDE71大作戦」の一環として、商業施設「ニトリモール相模原」で開催されたイベントに出展しました。

5回目の出展となった今回は、相模原市のごみの減量化・資源化のキャラクター「分別戦隊シゲンジャー 銀河 ペーパーピンク」や「相模原ごみDE71大作戦」のイメージキャラクター「レモンちゃん」の応援もあり、お客様がほぼ切れ目なく訪れました。順番待ちが出るほどだった「牛乳パックで、世界に一つだけのグリーティングカードを作ろう!」には132名が参加し、カードの出来映えに皆様大満足で、紙パックの再生パルプが優れた材料であることを実感していただきました。また紙パックリサイクルに関するクイズやアンケートに141名にお答えいただき、紙パック6枚からトイレットペーパー1巻が出来ることなどに驚いていました。

今回のイベントに参加された多くの市民の皆様にも、紙パックリサイクル活動につなげていただける機会になったと思います。



牛乳パック グリーティングカードづくり

## リサイクルキャンペーンの内容

- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・体験 牛乳飲んで「牛乳パック簡単手開き」  
「手すきはがきづくり(牛乳パックパルプ使用)」
- ・パネル 「森林管理～原料パルプのすばらしさ～紙パック回収とリサイクル」の流れ
- ・イベント 使用済み紙パック6枚とボックスティッシュ交換会

## 【商業施設「アリオ川口」】6月17日

埼玉県川口市の商業施設「アリオ川口」にて、川口市後援のもと紙パックリサイクルのイベント「みんなで、リサイクルを体験しよう!」を開催しました。

「紙すきはがきづくり体験」コーナーには159名が参加し、世界で1枚のオリジナルはがきづくりを楽しんでいました。飲み終えた牛乳パックの簡単手開きを行う「牛乳を飲んで手開き体験」コーナーには、160名が参加。学校で習った方法を親御さんに教えながら一緒に手開きをする児童もおり、紙パックリサイクルの浸透に手ごたえを感じました。

紙パックリサイクルの仕組みを説明するパネルやクイズのコーナーでは170名がクイズに挑戦し、紙パックのリサイクルは「洗って、開いて、乾かして」「分別回収」に出すことなどを情報交換。使用済み紙パックとボックスティッシュの交換所には家族連れが多数訪れ、紙パックを計367枚回収しました。

今後もたくさんのお客様が集まる商業施設でのキャンペーン活動を通じて、紙パックリサイクルの大切さを伝えていきたいと思っています。



牛乳パック手開き体験

紙パックの家庭内再活用  
の実態調査をしました。

## 【消費者インターネットアンケート調査】

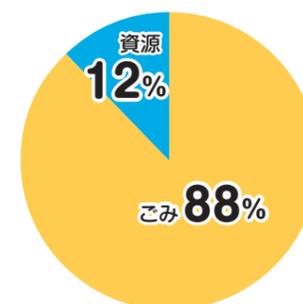
過去の調査において、家庭では使用済み紙パックのうち10～20%程度が再活用されていることがわかっていますが、どのように利用し最終的にどのように排出されるのかが明らかではありませんでした。そこで実態把握のため、家庭での再活用に関するアンケート調査を2回に分けて実施しました。

調査は、牛乳1000mlを飲んだり料理に使った人を対象に、全国人口の半数を超える9都道府県を選択し、30代～60代の男女1,926人へアンケートを行いました。

その結果、牛乳1000ml紙パックでの再活用比率は12.7%もありました。再活用の方法としては「まな板」が半分を占め、次いで「廃油入れ」、「子どもの工作」、「台所のごみ入れ」などとなりました。

再活用後は88%が可燃ごみとして排出されていることがわかりました。すなわち、再活用後廃棄されている紙パックは、量にして約9,600トンに相当します。

この大量の紙パックを何とかリサイクルルートに回せないか、また、この数字を回収率に反映させるにはどうすればよいかなど課題が山積ですが、今後も調査を実施する中で、紙パックリサイクル率の向上に結びつける活動を進めてまいります。



再活用後の紙パック(1000ml牛乳)処理方法

ラッピングバスで、  
紙パックのリサイクルを  
啓発しました。

## 【“牛乳パックン”ラッピングバス運行】

「プラン2020」の普及啓発事業の一環として、紙パック回収率向上に向けた効果的な新しい取組を実施しました。

広告面積が大きく視覚的インパクトを与えることができ、地域に密着した大勢の人々の注目を効率的に得ることができる媒体として、都営バスのラッピング広告を選択し、2017年10月1日から約3か月間、足立区・北区・荒川区を中心とした千住自動車営業所エリアを走らせました。

より目を惹く容環協のイメージキャラクター“牛乳パックン”をバス左右、後方の3か所に掲出し、紙パック6枚でトイレットペーパーが1つできる大切な資源を守るため、「洗って 開いて 乾かして」きちんと分別するよう訴求しました。

ラッピングバスは、毎日エリア内をいろいろな時間帯で運行し、老若男女問わず地域住民の方々に“牛乳パックン”の広告を見ていただけたのではないかと思います。今後も紙パックの回収率向上のために、いろいろな取組をしていくことを考えております。



“牛乳パックン”ラッピングバス